

人間が利口過ぎると、せっかくこうむっているおかげを取りはずすことがある。知恵が走りすぎて、神の上を行くからであるろう。

……「天地は語る」第七十七条……

解説 明治維新の文明開化で西洋の学術知識が中心の世の風潮について、ある

ご信徒が教祖金光大神様に伺ったところ「世が開けて、日乃大神様のことを、今は機械ということになったが、その機械のお蔭で、明かりを見せてもらい、世話になっているのであれば、やはり礼を言わねばなりません」と仰せられました。

金光様は、太陽が〈日乃神様〉であろうが〈機械〉であろうが、お世話になっ
ていければ、その働きに、お礼を申すことが、この大天地を司り、私たち
人類を生かし育む天地の親神様へ御礼を申すことになるとの思し召しであり
ます。そして、知恵や知識は、そのみを絶対視しては良い結果は得られず、
人知を超えた尊い存在(神仙)を頂くことよって、はじめ、人類に恩恵を
もたらすことを示唆された御教えであります。